

7 日本人の家を訪問する

POINT 1 日本人の家を訪問するとき、どんなことに気をつけますか。

POINT 1 のねらいは、以下の2点です。



- 学習者に日本での個人宅訪問のマナーを知ってもらうこと
 - 学習者に個人宅訪問のマナーの文化差に気づいてもらうこと
- ただし、日本式のマナーを学習者に強制するものではありません。

1 日本人の家の玄関で靴を脱ぎます。A と B のどちらが正しいですか。

答え： B が正しい

相手に背を向けずに靴を脱ぎ、脱いでから靴のつま先側が入口側を向くようにそろえるのが適切なマナーとされています。

2 A ~ C のマナーに気をつけましょう。

- 代表的な A ~ C のマナーを確かめておきます。
- A は、1 からのつながりで、1 の B のように靴を脱いでから、2 の A の右側のイラストのようにそろえることを再度確認しておくといいでしょう。

3 日本では a ~ d をしても大丈夫だと思いますか。あなたの国やクラスメートの国ではどうですか。

- 訪問時のマナー、習慣の文化差に気づくことがここでの目的です。学習者をペアもしくは小グループに分け、a ~ d について自分の出身国・出身地域では許容できるか、自由に意見を出してもらいます。
- まず、a ~ d は文化によって許容されるかどうか異なるものであることを教師が自覚しておくことが必要です。
- a、c は日本では一般的にあまり行わないことですが、許容される文化もあります。
- b はマナー違反ではありませんが、日本では訪問先の人から勧められれば、来客用のスリッパを使うのが一般的でしょう。ただし、これも絶対ではないので、そうすることが多いという指摘にとどめておいたほうが無難かもしれません。
- d に関連して、自宅に来客を招いた際、部屋を案内する（いわゆる house tour）文化もあります。ただし日本では新築祝いなどの場合を除き、あまり一般的ではないと思われます。

POINT 2 日本人の家に着いたとき、どんなことに気をつけますか。

POINT 2 のねらいは、以下の2点です。



- 訪問先到着直後に使える挨拶や定型表現を学習者に知ってもらう。
- それらの挨拶や表現が同じ状況でも相手との関係によって使い方が異なることへの学習者の自覚を促す。

a～cの中には、1つだけ適当ではない言い方があります。どれですか。また、残りの2つは、どんな人に対して使えるか、話しあいましょう。

1 インターホンで話すとき

答え：aは不適當

- b：インターホン越しに話している相手と面識がある場合、訪問が2回目以上の場合などに使える。
- c：初めての訪問の場合や、インターホン越しに話している相手が、自分の知人なのかその家族かわからない場合に使える。

2 家に上がるとき

答え：bは不適當

- a：親しい友人だと使いにくい。
- c：一般的によく使われる。相手との関係を問わず使える。

3 おみやげを渡すとき

答え：aは不適當

- b：知人の家族や、目上の人などに対して使える。
- c：親しい友人に対して使える。また、訪問先の子どもなどに対して使える場合もある。

- **3** では、知人の家族が知人より年下の場合、bとcの両方が使えますが、cは相手と非常に親しい場合や、相手が小さい子どもである場合など、使える場合がかなり限定される点に注意が必要です。
- **1** から **3** を通じて、適当でない言い方を見つけるだけに留まらず、残りの2つの言い方が具体的にどんな相手に対して使えるかを学習者に考えてもらうことが重要です。そのために、例えば、次の進め方の例のように教師が相手を指定して、その相手に適当な2つの言い方が使えるかどうか質問をしながら話し合いを進めるといいでしょう。

〔進め方の例〕

- ① 次の2つの場合で、b、cどちらを使うのがいいと思うか、小グループで話しあわせる。可能な限り、bまたはcを選んだ理由についても話しあわせる。

例) 大学の友達の母親におみやげを渡す場合

大学の友達の妹(高校1年生)におみやげを渡す場合

- ② グループで出た意見をクラスで共有する。

- ③教師がコメントする。(母親には b を使ったほうがいい場合が圧倒的に多いが、妹の場合は学習者との年齢差、親しさの度合いなどにより、どちらがいいかは一概に言えない。)
- ④学習者が訪問しておみやげを渡したい相手について b、c のどちらが使えるか、グループで話しあわせる。
- ⑤話しあいの結果をクラスで共有する。
- ⑥必要に応じて、教師がコメントをする。

POINT 3 初めて会った友達の家族に、どう話しかけますか。



POINT 3 のねらいは初対面もしくは、面識はあってもあまり話したことがない友人の家族に話しかけるいくつかの方法を学習者に知ってもらい、状況に応じた自分なりの話しかけ方ができるようになるための一助とすることです。

1 部屋にある物について話す

- ここでは部屋にある物を手がかりに友人の家族に話しかける方法を紹介しています。具体的には見えた物についてまず質問し、相手の返答に対して、関連した質問（フォローアップ質問）をするという方法と、コメントをするという方法の2つを紹介しています。
- 〔会話例 1〕は「見えたものについての質問+フォローアップ質問」という方法を、〔会話例 2〕は「見えたものについての質問+コメント」という方法をそれぞれ例示しています。
- 部屋にあるものを手がかりに話しかける以外にも友人の家族に話しかける方法があります。(例：手料理を出してもらったら、おいしいとコメントしたあとに、作り方を聞くなど) 友人の家族に話しかける方法を学習者にも考えてもらい、クラスで共有するといいと思います。

2 友達のいいところをほめる

- ここでは友人のいいところを話題にして、家族に話しかける方法を紹介しています。
- 友人のいいところを主に形容詞を使ってほめるだけでなく、必ず具体例を挙げるように促します。具体例を挙げることにより、学習者と友人との関係や学習者が友人についてどう考えているのかなどが、話しかけている友人の家族にもよく伝わり、そのことから会話が盛り上がったり、長続きする可能性が高まるためです。
- 訪問する知人が学習者にとって目上の人の場合、その人の能力をほめてしまうと失礼になることがある点を指摘しておくといいでしょう(『れんしゅうシート』<注意>および、p. 187 例 2 の 4 コマ漫画「先生に最後の挨拶」参照)。その場合、常々、知人が学習者にしてくれることを「～てくださいます/くださるんです」などを使って家族に伝えるなど、ほめる代わりに方法を提示しておくことで学習者も安心するでしょう。

練習1 友達の家族に話しかける練習をしましょう。

- 以下、A～Cの解答例を示しておきます。

A 【友達の弟に話しかける】

例) 「ロックが好きなんですか／ロックが好きなの？」
「ギターを弾くんですか／ギターを弾くの？」など。

B 【友達のお母さんに話しかける】

例) 「テニスが好きなんですか」「テニスをするんですか」
「テニスの試合で優勝したんですか」など。

C 【友達のお父さんに話しかける】

例) 「〇〇君／さん、努力家なんですよ。毎日、剣道の練習をがんばっているんです。」
「〇〇君／さん、すごいですね。いつも、朝早く、剣道の練習をしていますね。」

練習2 友達のいいところを話す練習をしましょう。

例は省略。

POINT 4 食べられないもの／飲めないものを勧められたとき、どう断りますか。

POINT 4 のねらいは、訪問先で飲食できない、もしくは苦手なものなどが出された場合の対処法を学習者に考えてもらうことです。

あなたはコーヒーが飲めません。a～cの中で、一番いいのはどれですか。

答え：bが一番いい

〔会話例〕【B. いらないと言う】では「結構です。」と「もう結構です。」の2つが提示されています。「結構です。」は、飲食物を勧められた際、アレルギーなどの理由により食べられなかったり飲めなかったりする場合に使います。「もう結構です。」は、おかわりなどすでに提供されたものを断る場合に使います。

練習3 友達のお母さんの勧めを断る練習をしましょう。

- 例) ①「ありがとうございます。でも、(私は) カニ・アレルギーなので……。」
②「ありがとうございます。でも、(私は) ムスリムなので……。」

練習4 食べられないもの／飲めないもの／苦手なものを断る練習をしましょう。

- 例) A：Bさん、もっとどうですか。(Bのグラスにビールを注ごうとする)
B：ありがとうございます。もう結構です。

POINT 5 話しにくい／話したくないことを聞かれたとき、どうしますか。

POINT 5 のねらいは、話しにくい／話したくないことを聞かれた際、印象を悪くせずに返答を避けるいくつかの方法を学習者に知ってもらい、最終的に状況に応じた質問の回避ができるための一助とすることです。

あなたは家族についてあまり話したくありません。a～cの中で、どれがいいと思いますか。

答え：b、cがいい。

aのようにきっぱりと言い切ってしまうときつく聞こえ、相手に悪い印象を与えてしまう恐れがあります。ここでは、b、cのほうが返答を避ける表現としては効果的です。

1 相手に話したくないと伝える

「謝る＋「～のことはちょっと……。」＋理由を述べる」という一連の発話を相手の質問への返答を避ける基本形として紹介するといいいでしょう。ただし、常に3つの要素が必要なわけではなく、理由は必須ではありません。

2 決まり文句を使う

決まり文句を使って、あやふやな返事をする方法を紹介しています。教科書では「ええ、まあ……。うーん、そうですね。」「そうですねえ。どうでしょうかねえ。」の2つのパターンを挙げていますが、その他の定型表現を紹介してもいいでしょう。(例：「うん。そんなところかな……。」「そうですねえ。ご想像にお任せします。」など)

練習 5 言いたくないことを聞かれたときに、その話題を避ける練習をしましょう。

- 例は省略。
- 相手と相手との関係（例：毎日会う日本語の先生、親しい友達）をあらかじめ学習者に設定してもらい、相手により普通体を使うか、です・ます体を使うかを考えながらペアワークを行うように指示するといいいでしょう。

POINT 6 日本人の家から帰るとき、どう言いますか。

POINT 6 のねらいは、以下の2点です。

- 訪問宅の人にいとまごいをするとき、訪問宅の玄関を出るときに使う挨拶や定型表現を学習者に知ってもらう。
- それらの挨拶や表現が同じ状況でも相手との関係によって使い方が異なることへの学習者の気づきを促す。

a～cの中に、1つだけ適当ではない言い方があります。どれだと思いますか。また、残りの2つは、どんな人に対して使えるか考えてみましょう。

① 帰ることを伝えるとき

答え：aが不適當

b：親しい友人に使える表現

c：目上の人やあまり親しくない相手（例：友人の親など）に対して使う表現

② 家を出るとき（玄関で）

答え：aが不適當

b：典型的には目上の人やあまり親しくない相手に対して使う表現

親しい相手に対しても、あらたまりの気持ちから用いることができる

c：親しく、上下関係では同等か目下の相手に対して使える表現

- この場合、aは相手によってはまったく問題なく使える場合もあり、絶対に使えないとは言い切れませんが、ここでは以下のような点に学習者の意識を向けるため、あえて適当ではない表現としておきました。「さようなら」には今生の別を思わせる働きがあり頻りに会う相手には使いにくいこと、また、ややフォーマルな表現でもあるため、親しい友人に使うと不自然なこと、子どもっぽい印象を与える恐れもあることなどです。
- **POINT 2** 同様、①から③を通じて、適当でないものを見つけるだけでなく、残りの適切な言い方がどんな相手に対して使えるかを学習者に考えてもらうことが重要です。具体的な方法としては、**POINT 2**で示したように教師がさまざまな相手を挙げ、その相手に対してどちらを使うか学習者に考えてもらう方法のほか、学習者に具体的な相手（例：アパートの大家さん、大学のサークルの友達など）を挙げてもらい、その相手に対して自分はどちらの表現を使うか言ってもらう方法も考えられます。

練習6 「挨拶ことば」カルタ取りゲームをしましょう。

- このゲームには「読み札」と「取り札」の2種類のカードが必要です。「読み札」は教師が用意してください。次ページの「取り札」をプリントアウトしてお使いください。
- 読み札に書くのは以下のような状況説明です。

- ・「友達の家のインターホンで友達に自分の名前を言います。」
- ・「友達の家のインターホンで友達のお母さんに自分の名前を言います。今日、初めてその友達の家に来ました。」
- ・「友達の家のインターホンで友達のお母さんに自分の名前を言います。前にも、その友達の家に来たことがあります。」
- ・「友達の家の玄関で靴を脱いで上がります。」
- ・「友達におみやげを渡します。」
- ・「友達のお母さんにおみやげを渡します。」
- ・「友達の家で、友達に帰りたいと言います。」
- ・「先生の家で、先生に帰ると言います。」

- ・「友達の家を出るとき、友達に挨拶をします。」
- ・「友達の家を出るとき、友達の家族に挨拶をします。」

●手順は以下のとおりです。

〔手順〕

- ① 4名のグループを作る。
- ② 取り札を机の上に広げる。
- ③ 教師が読み札を1枚見せるか内容を読み上げ、その状況にふさわしい取り札を学習者ができるだけ速く取る。
- ④ グループ内でいちばん多くカードを取れた学習者が勝ち。

*バリエーション：慣れてきたら、カードを取る代わりに口頭で答えてもらう。

[取り札] *点線で切り話して、お使いください。
*取り札はグループの数だけ用意します。

<p><名前>です。</p>	<p>にほんごがっこう だいがく ○○日本語学校 / 大学の りゅうがくせい 留学生の なまえ もう <名前>と申します。</p>
<p>にほんごがっこう だいがく ○○日本語学校 / 大学の りゅうがくせい 留学生の なまえ <名前>です。</p>	<p>しつれい 失礼します。</p>
<p>ごめんください。</p>	<p>じゃま お邪魔します。</p>

これ、〇〇です。
よろしければ、どうぞ。

これ、つまらないもの
ですがどうぞ。

これ、〇〇。
よかったら^た食べてみて。

あのう、^{かえ}帰りたいです。

もう^{おそ}遅いから、
そろそろ^{かえ}帰るよ。

もう〇時^じですね。
そろそろ^{しつれい}失礼します。

では、さようなら。

^{きょう}今日はありがとう。

^{じゃま}お邪魔しました。